10月6日の列聖式に向 けて

オプス・デイ創立者・福者ホセマリアの列聖式まであと数ヶ月となりました。1992年の列福式は、30万人を超える巡礼者が参加する画期的な出来事でした。数週間前の『イル・テンポ』紙(イタリア)に、著名なイタリア人バチカン専門家・ダヴィッド・ムルジア氏の記事が掲載されました。

「1992年に挙行されたエスクリバーの列福式には30万人が参加したが、聖ペトロ広場にこれほどの大群集が集まったことは未だかつてあり、まさに人類の祭典であり、ことは入り口二世教皇が発言した。よりは一人のある集いでありとさん)と呼ぶ一人の司祭を称えるために、世界中から、船ゆるを動車、飛行機など、ありとあらゆりを通手段を使って、多種多様の人々が集いました」

10月の列聖式に向けての準備

「この種の出来事にどれくらいの 人々が集まるかは予想しにくいこと ですが、列福式のときと同じくらい か、多分それ以上の参加者が訪れるに しょう。1992年5月の列福式に は、『オッセルバトーレ・ロス は、『オッセルバトーレるとした。 インリン によいましたの 大勢の人が再び参加したいと言います。 大聖年でのローマの経験ま せん

ホセマリア・エスクリバー列聖組織 委員会の広報委員長マルタ・マン ツィ女史はこう語っています。

このように大群衆が参加する祭典を 組織するのは大変かという質問に対 して、マンツィ女史は次のように答 えています。

「それ程でもありません。他の所で となれば、事情が変わるでしょう が、ローマはここ数年間、もっと大 勢の人々を受け入れてきましたか ら、すでに経験済みです。組織委員 会は列聖式参加者のために働いてい ますが、参加したくても病のために 参加できない人々、お金不足で参加 が難しい人々、家族や仕事のために 参加できない人々のことも忘れては いません。列聖式参加者というと き、ここローマにやって来る人々だ けでなく、来たくても来られない 人々を含むと考えています。した がって、テレビやその他のマスコミ を活用して数日間の祭典の模様を伝 え、来られない人々が列聖式に間接 的に参加できるよう最大限の努力を するつもりです|

ローマへ「ようこそ!」

「ようこそ!」、これが、列聖式に 参加するためにローマを訪れる巡礼 者を受け入れるために、ホセマリア・エスクリバー列聖式組織委員会が推進するプロジェクト名です。

このプロジェクトの代表フェデリカ・パオリーニ女史は次のようにコメントしています。

「ホセマリア・エスクリバー列聖式 に際して、ローマ在住の家族の多く が五大陸からローマを訪れる巡礼者 に家庭を開放します。私たちの多く にとって、オプス・デイ創立者は『パ ドレ』(お父さん)です。彼のおか げで、教会は家族であることを学び ました。巡礼者を歓待することは、 身内の人々に対するような自然な反 応です。伝えたいこと、分かち合い たい思い出など、話題はいくらでも あります。きっとホストファミリー にとっても巡礼者にとってもすばら しい経験になることでしょう|

青年ボランティア

ローマ在住の大勢の青年たちも福者 ホセマリアの列聖に参加する巡礼者 を受け入れるために準備を始めてい ます。「ボランティアたちはこの期 間にローマを訪れる人々を大歓迎し たいと考えています」と列聖式ボラ ンティアの協力者エリザベス・ヘイ リは話してくれました。

「計画は、巡礼者の世話をしたいと 望む青年グループを結成し、列聖式 を挟む数日間、巡礼者を世話するこ とです」

ボランティアたちは、ローマ市内の 要所に配置され、案内や種々のサー ビスを提供します。

「空港やテルミニ駅に着いた人々を 案内したり、ホセマリアの聖遺体が 安置される聖エウジェニオ教会への 道を教えたり、ローマの多くの教会 で行なわれる感謝ミサの案内をした り、列聖式やその他の機会に体の不 自由な人々に付き添ったりします」 ローマの青年ボランティアたちはこの期間中に各国から訪れるボラン ティアたちと集いを持ちます!

列聖の三つの理由

「列聖の目的は何でしょうか」この 質問に対する答えは、教皇が列聖を 宣言するときの言葉のなかに見つけ ることができます。「三位一体の神 を称え、カトリック信仰を賞賛し、 キリスト教的な生き方を深めるた め」です。

また、今年4月セビリアで開催されたシンポジウム『20世紀の証人、21世紀の模範』での列聖省長官ホセ・サライヴァ・マーティンズ枢機の言葉も列聖式の重要性を如実にと郷しています。「福者あるとは神に感謝の心を上げます。同時の恩寵に答えた信者を誉め称え、かれらをすべての人が聖性に召

されるための仲介者・模範として提示します|

三つの理由は今回の巡礼の理由でも あります。第一に、列聖式に参加す るとは超自然的かつ歴史的な教師と しての教皇の行為に与ることである から。第二に、教皇に会い、敬いを 表すというのは、ローマを訪れるた めの最良の動機であるから。そし て、最後に、ローマは歴史的芸術的 に独自の価値があるから。それは、 永遠の都は西洋文化の揺籃の地であ り、キリスト教世界の中心であるか らです。バシリカ(大聖堂)を訪問 し、記念碑や建造物を見て感嘆する ことはカトリック者にとって当然の 義務とも言うべきことです。

列聖式と続く数日の間に捧げられる 感謝ミサにあずかるには入場券が必 要です。いずれの入場券も無料で す。各国の巡礼旅行委員会は必要な 入場券の配布をします。また、ロー マでは、10月5日、6日、7日の三日間、案内所を設けますから、そ こでも入場券を入手できます。

「ハランビー2002」計画

ハランビーとは、スワヒリ語で「皆が一つになって」という意味ですという意味ですというであることを始めることを始めて、全員が口にする言葉です。と関連を踏まえて、列聖式とが召集を踏まれる。 したした。教皇様が召集されるとが表ますのとき、具体的なとき、は数多くの機会に対した。教皇様が表明された望みです。

「列聖式はいずれも神の賜物です。 そして、この賜物は感謝への招きを 含んでいます。列聖式準備委員会 は、具体的な感謝のしるしとして 「ハランビー2002」計画を推進する ことにしました。ホセマリア・エス クリバーは具体的な考えのできる人 で、常に行いに現れる決心を立てる よう、行いで奉仕するよう、と勧め ていました!

このようにリンダ・コルビ女とは説明しています。ハランビー2002計画はアフリカにおする教育された基別で設置された基別で設置されたを援助する目的で設置があるためで表別を表が表別したいないないが表がある。当れたいというです。当然ですが、献金額は、当の可能性によって異なります。

献金は、集まった額にもよりますが、公募を通じて選ばれた教育プロジェクトに贈られます。アフリカにおける教育活動のすべてに開かれたこの基金の公募に関する情報は、次の列聖関係のホームページ

www.escriva-canonization.org(英語)に掲載してあります。

『ムンド・クリスティアーノ』

2002年6月号

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/10yue-6ri-nolie-sheng-shi-nixiang-kete/(2025/11/21)